

# 神長の一木三体仏

むかしのこと。賊の大将高丸が、烏山の寿亀山にたてこもったと。

この時、桓武天皇の御命令で、坂上田村麿呂は、清水寺の千手観音さまのお助けを受け、高丸と蝦夷の地に追いやり滅ぼすことができた。そこで、さっそく滝の大平寺に千手観音様をお祀りしたと。

ところが、大平寺が火事にあつてな千手観音様が焼けてしまった。

「なんとということだ。もう一度この地に、千手観音様をお祀りしなければ」

慈覚大師というお坊さんは、なんとしても、千手観音を大平寺にお祀りしたいと考え、観音さまを刻む立派な樹をさがしたと。

ちょうど神長の川西の戸市に、それはそれは大きな榎があつてな。慈覚大師は、その榎で千手観音を刻んだと。

そして、改めて大平寺の御本尊にお祀りした。

ところが、千手観音を刻んだ榎があまりにも大きな樹だったので、残りの樹で馬頭観音さまを刻んで、神長の観音寺におさめた。またその残りで観音様を刻み、小墻の観音堂の御本尊にお祀りしたと。

一本の樹から三つの仏さまが刻まれたんで、その仏さまを一木三体仏と言うようになったと。

大平寺の千手観音様は、那須家の殿さまや代々の殿さまから、厚い信仰を受けてな、村や町の人たちからも有難い観音さまと信心され、今もなお人々がお参りしているんだと。

おしまい

## ひとロメモ

大平寺の千手観音は、県や町から重要文化財に指定されている仏さまです。